

只見



愛と復興

議会だより

No.129 平成24年11月22日発行



平成23年度只見町決算認定	2
クローズアップ災害復旧	4
委員会活動報告	7
一般質問(10人の議員が登壇)	11
意見を聴かせてくんつえ 議員の突撃インタビュー	23



元気な町民の「豆打ち」の様子

一般会計65億7,400万円超

7.29豪雨災害復旧関連で決算増



豪雨による濁流

只見町議会は、平成23年度只見町会計全13会計を審査するために、9月定例議会において議長を除く11人の議員による「決算特別委員会（委員長：大塚純一郎議員、副委員長：小沼信孝議員）」を設置し、監査委員の決算審査報告や財政健全化法に基づく財政状況審査の説明を受け、予算の使途や効果を集中審議しました。一般会計の決算額は、新潟・福島豪雨関連の交付金等があったため65億7,400万円。歳出は57億7,800万円となりました。審議の結果、5つの意見を付して全会計決算を原案のとおり認定しました。

ここは抑えたい H23年度

前年度と決算額を比較

災害復旧や被災者支援等の交付金等国・県からあり！

歳入 13億円の増
歳出 8億円の増

一般会計決算額

歳入 65億7,400万円
歳出 57億7,800万円

町の基金残高(貯金)と借入金(借金)は？

基金残高 46億6,400万円
借入金残高 75億円

借入金は過去10年間で、約10億円の返済をしています

町の財政は大丈夫か？

財政健全化法に伴う比率等を算出し、その財政状況を審査したところ町の財政は、健全です。



決算の概要

平成23年度決算を認定

決算の特徴

平成23年度決算を認定するにあたり、施策の大綱別にその取り組んだ特徴をお知らせします。平成23年度の大きな特徴として、新潟・福島豪雨災害が挙げ

られます。豪雨災害の主な事項は、p.4からの特集クローズアップ災害復旧で紹介します。

住民と行政の協力

- ・入叶津他の2地区の集会施設を修繕
- ・集落活性化のため、集落元気づくり事業等を推進

自然への感謝

- ・住宅用太陽光発電システム設置モデル事業実施
- ・除雪支援保険事業や住宅屋根除雪の助成事業を充実
- ・水道施設等の管理を民間委託

元気なまちづくり

- ・医師の確保4人の常勤医師を確保
- ・地域医療連携ネットワークシステム事業（画像システム）を構築

新たな産業と循環型社会

- ・原発事故等による風評被害の払拭事業
- ・青少年旅行村いこいの森管理棟の改修
- ・会津田島駅へのバス運行委託

教育・文化事業

- ・定例教育委員会の公開
- ・只見高校振興対策
- ・学校給食甲子園全国ベスト12

只見町議会から

- ☑各種補助金の効果を検討すべき
- ☑有害鳥獣駆除隊の全体強化を
- ☑時代に合った林業振興を
- ☑地区センター事業の再検討を
- ☑災害の復旧・復興対策の継続を

5つの意見を伏し
認定

クローズアップ

災害復旧

美しい只見町を取り戻そう

平成23年度に発生した新潟・福島豪雨災害。その爪痕は大きく、現在もその復旧工事等を行っているところだ。

9月定例議会において、平成23年度の決算を認定したところですが、一般会計の中でも大きな割合を占める豪雨災害への対応や支援、復旧工事等をクローズアップし、特集します。



の解体

26万円



公共土木復旧

3億6,900万円



農業用地復旧

2億9,500万円



生活再建

97万円



林道復旧

1億3,500万円



公営住宅の復旧

9,100万円

歴史に残る豪雨災害



予算の
執行以外に：

- 避難所設置
13施設
7月30日～
12月7日
延5,800人
- ボランティア
8月1日～
9月4日
延9戸24人
- 仮設住宅
延9戸24人
- 給水活動
柏市・会津若松市の
支援があり、
延12,700人
に提供



金額については、万単位で掲載していますので、実際の決算額とは異なります。

物申す!

只見町議会からの提言

国に2件の意見書提出



「オスプレイ」の配備と 町内低空飛行に反対

概要

米海兵隊の垂直離着陸機「MV22オスプレイ」は、沖縄県だけでなく、全国各地で低空飛行訓練を行うことが明らかとなり、次の事項の実現を強く求める。

記

住民の不安と怒りが広がっ



オスプレイは只見町の上空を飛行する計画があります。

住民を含め、国民の命と安全を守る立場から「オスプレイ」配備と日本国内での低空飛行に反対する。

ている。

訓練は米軍が指定した訓練ルートで、夜間も含めて低空飛行を行うとしており、只見町の上空を飛来する計画となっている。

世論調査でも、「安全性が確認できれば沖繩配備を認めるとする政府方針」について、「支持しない」が57.8%にのぼっている。

全国知事会は「自治体や住民が懸念する安全性の確保が出来ない現状では受入れは出来ない」として、配備や国内での低空飛行訓練に反対する緊急決議を採択している。

住民を含め、国民の命と安全を守る立場から「オスプレイ」配備と日本国内での低空飛行に反対する。

概要

地球温暖化防止のため、我が国は京都議定書において、第1約束期間である平成20年から平成24年までの間に、温室効果ガスを6%削減することが国際的に義務付けられているが、そのうち3.8%を森林吸収量により確保している。

記

しかしながら、木材価格の暴落・低迷や林業従事者の高齢化、後継者不足など厳しい情勢にあり、森林吸収源対策などの地球温暖化対策に取り組むための恒久的・安定的な財源が大幅に不足している。

二酸化炭素吸収源として最も重要な機能を有する森林の整備・保全等を推進する市町村の役割を踏まえ、「地球温暖化対策のための税」の一定割合を、森林面積にに応じて譲与する「地方財源を確保・充実する仕組み」を早急に構築すべき。



林業の後継者不足等を解消させる仕組みづくりが必要です。

林業の後継者不足等を解消させる仕組みづくりが必要です。

地球温暖化対策の 仕組みづくりを求める

災害対策特別委員会中間活動報告

豪雨災害関連

6月会議において豪雨災害の検証や放射能の影響に関する調査をより深く行うため災害対策特別委員会を設置し、特にダム放流に関する調査については、町当局に公平な調査をするよう決議したところだ。

あれ!? 調査の中で

見えてきた矛盾

矛盾点

○河川管理者(福島県)は「堆砂は無かった。」と回答しているが、電源開発(株)は自ら「管理区域に堆砂がある。」として損害賠償を始めた。等

問題点

○町当局はダム放水の連絡を受けてもなお、住民に適切な周知をしなかったのでは？
○只見ダム操作規程では河川法の目的に合わないのでは？等

ダム放流に関する

町独自調査に申し入れ 情報伝達・河川堆砂に疑問

ダム放流に関する報告書には不可解な点が多く、当議会は町当局の町独自調査に次の事項を加えるよう町当局に申し入れました。

調査する際に注意されたい事項

○「調査する課題」は必須とし、公正な第三者機関に調査を依頼すべき。
○只見町議会の所管委員会の調査の過程で浮上する課題についても、可能な限り調査に追加されたい。
○再調査の進捗状況は随時只見町議会に報告されたい。

調査する事項

○住民へのダム放水の情報伝達に問題があったのでは？
○堆砂土砂で洪水の流下能力が低下していたのでは？

放射能の

風評被害関連

町内の放射能に関する被害及び放射能を起因とする風評被害等について、町内事業者及び町民との対話により実態を調査しました。

明和保育所児童の保護者の心配
食品への不安はあるが、過敏にならないようにしている。
情報の正確性に疑問を感じている。
給付金より検査してほしい。

(株)季の郷湯ら里からの意見
風評被害対策事業を充実させてほしい。
広域的な観光の活性化に繋がるよう取り組む。

伊北漁協の心配
放射能の影響が懸念

されることから釣り客数は「0人」である。

放射線量の高い魚が町内の河川等にいる場合、魚釣りを禁止する可能性もある。

只見特産の心配

昨年集荷したワラビがそっくり残っている。野菜関係は暴落している。

町事業を活用し、販路を拡大していきたい。
トマトジュースが好評で新たな機械の導入等を考えている。

塩沢地区観光協会の心配

風評被害にあつており、とある道の駅への仕入れを断られた経過がある。

今後も仕入れ先が無いのであれば続けることが難しい。

常任委員会活動報告

総務厚生

記号式投票の廃止

只見町で行われる町長選挙においては、投票用紙に「○」を付け、有権者の意思を示す方法をとっていましたが、他の選挙と同じように記名式の投票とすることの説明を受けました。



町長選の投票用紙が変わります。

集会施設に避難所機能を！

避難所機能を備えた集会施設設置に向けた説明を受けました。予算案の提出については、地域住民との協議を重ねた上で、慎重に内容を精査し計画性を持って提出することを町当局に伝えました。

福祉施策の今後

近隣の障がい者施設（町内からの通所者有）が就労施設へ移行する旨の説明を受けました。平成24年度から平成26年度に実行する介護保険事業計画に基づく小規模特別養護老人施設（利用者数30人未満）の整備について説明を受けました。小規模特別養護老人ホームは只見町民の利用が中心となります。

経済文教

災害復旧等

橋梁災害復旧工事（小川橋）の施工予定について、今後上部工の工事契約をした旨の説明を受けました。豪雨災害を受けた集落の集会施設整備については現在協議中であり、条例改正についての説明を受けました。

教育問題

民具の収蔵施設改修へ

現在、民具を収蔵している施設の老朽化等に伴い収蔵・管理方法の見直しについて経過等を含め、現収蔵施設の改修をする説明を受けました。今後の予算計上にあたっては、関係機関等と事前に協議し内容を十二分に検討の上、計上するよう当局に伝えました。

いじめ問題への対応を

いじめ等について緊急再点検については、形式的な対応ではなく生徒からの聞き取り等を行い根気よく対応する必要があると当局に伝えました。

只見高校振興対策

只見高校の存続は、地域の活力の原点の一つでもあり、引き続き対策の努めるよう当局に伝えました。



只見高校の存続は重大な課題です。

町民からの陳情・請願

あの陳情の行方と結果

陳情 毘沙沢林道の舗装依頼 不採択

布沢区より陳情のありました毘沙沢林道の舗装依頼は、経済文教常任委員会に付託し、現地調査等の審議を経て、不採択としました。

不採択の理由

沿線には別荘が複数建築されている状況ではありますが、当地域は過去の災害時に集落移転をしている経過があり、大規模なインフラ事業には適さないものと考えます。

よって、全面舗装は行わず部分的な改修に留めることが妥当と判断し、本陳情については不採択としました。



布沢区からの陳情箇所を視察

町民文化ホールの建設を

只見町文化協会より

只見町文化協会より、町民文化ホールの建設に関する陳情がありました。

陳情の概要

この陳情は、担当委員会に付託し、調査を経て議会意思を決定していきます。

各団体の広域化が進み、400〜500人規模の諸行事が開催されているが、当町にある既存施設では対応が出来ない。

広域的な諸行事の受け入れは、本町の振興に必要な不可欠であることから多目的機能を持つ町民文化ホールの建設を町の計画に位置付けられたい。

中間報告 陳情 官公造林の伐採反対

坂田区より、陳情のあった官公造林の伐採反対に関する陳情については、総務厚生常任委員会に付託され、現地調査及び関連調査を行っております。

中間報告の概要

伐採による水源枯渇や保水能力低下による災害の危険性の増大、自然環境の破壊と「自然首都」「水の郷」と位置付けた只見の自然環境の保護施策との矛盾点が挙げられており、伐採に反対することは理解出来ます。

森林管理署で木調査をしていることから、継続して審議していきます。



坂田区からの陳情箇所を視察

用語説明
官公造林：法律に基づき国が私有地等に造林した分取林であり、林野庁が管理を行っているもの。
木調査：一定のエリアを絞り、その内からサンプルとなる木材を調査する方法

シリーズ 議会基本条例 第3回

前回までにお知らせした議会基本条例の内容については、議会基本条例が出来た背景や議会の責任、議会提案する前の事前協議の重要性について説明してきました。

議会を構成する議員は、町民の方々より選ばれた代表です。その議会議員がどのような活動

をし、議会でどのような審議や決定をしたかは議会だよりでお知らせしていますが、これからは、地域の中に議員が出向き説明するように議会基本条例の中で決めています。

今回は、議会と町民がより身近になるために設けられた事業を紹介します。

議会報告会 ～毎年開催する顔の見える議会報告～

議会基本条例では、議会がどのような議案をどのように決定したのかを町民に説明する責任があるとして、年に1回以上議会報告会を開催することになっています。

その際に頂いたご意見を議会運営等に活用させていただきます。尚、今年度は、10月24日から10月26日にかけて各地区センターで開催しました。今後の開催については、随時お知らせします。



議会報告会

一般会議 ～同じ仲間と一緒に議員と意見交換～

一般会議って？

議会報告会は議会側が主体となり会を開催し、町民の方々に来てもらうに対し、「一般会議」とは町民団体やNPO等からの要請を受けて、議会が意見交換する場を開催します。

町民団体とは町内の婦人会、青年団体等そのジャンルは問いません。

一般会議の特徴

一般会議の特徴は、幅広い議題を説明する議会報告会とは違い、同じ仲間同士が議会議員と意見交換をすることになりますので、特定の範囲（町内経済・少子化問題等）に絞った意見交換が出来ます。

現在、実施に向けた協議をしています。申し込み方法等の詳細決定後お知らせ致します。

コミュニティ活動の支援

～より身近な議会へ～

町内の集落やボランティア団体等の活動推進に必要な情報提供やその他の支援に努めていき、より身近な議会となるように努めていきます。

一般質問 10人の議員が登壇

- 1 大塚純一郎 ……12
 - ・ユネスコ・エコパーク登録に伴う今後の施策及び計画について
- 2 藤田 力 ……13
 - ・「八十里峠」開通に備えた町づくり
 - ・県立只見高校の存続対策等について
- 3 佐藤 孝義 ……14
 - ・復興後の産業施策について
- 4 新國 秀一 ……15
 - ・只見町の交通対策について
 - ・町長の4年間の自己採点は
- 5 石橋 明日香 ……16
 - ・高齢者向け集合住宅及び若者・I&U&Jターン者向け住宅の整備や移住者誘致方針、人口減・高齢化に伴い生じる集落の過疎化問題への取り組みについて
 - ・企業誘致に関して具体的にどのような取り組みを町はしているのか
- 6 目黒 仁也 ……17
 - ・災害に強い地域づくりについて
 - ・観光の再生・復興について
- 7 小沼 信孝 ……18
 - ・ユネスコ・エコパーク認定後のビジョンについて
 - ・放射線量調査について
 - ・只見川・伊南川の合流地点の河川計画について
- 8 鈴木 征 ……19
 - ・平成25年度に向けた町財政運営等について
 - ・JR只見線 只見川口間の災害復旧対策について
 - ・豪雨災害から復旧復興に向けた取り組みについて
- 9 中野 大徳 ……20
 - ・浅草岳登山道の現状と復旧見通しについて
- 10 山岸 フミ子 ……21
 - ・豪雨災害による復旧見込みについて
 - ・子宮頸がんワクチンの接種費用補助について

この町を想い、 町政を問う

※質問した議員順に掲載しております。

一議員1ページの割り当てととっているため、ページの都合上、質問・答弁はその概要を掲載しております。

また、質問を割愛する場合がありますが、議会ホームページにて議事録を公開しておりますので、詳細はそちらでご確認ください。

一般質問者席

ユネスコエコパーク登録に伴う施策を問う

おおつか じゅんいちろう
大塚 純一郎 議員

保護・保全、調査・研究、産業振興が大きな柱 —— 目黒町長



大塚議員

只見町はブナと生きる町、雪と暮らす町を町づくりの基本理念としている。

町の総面積の94・8%がブナの原生林を中心とした森林原野だ。その設定にあたって地元住民の合意形成と主体的参加が前提であり、その活動は地域住民の総意に基づくものとなる。

今、この只見町は災害復旧後を見据えた確かな地域づくりが急務と考えるが、地元説明会等での町民の意見・

要望、そして理解はどのようなものか？

町長

登録に伴う地域の住み分けに関する設定案は自然公園法による越後三山只見国定公園、林野庁の保護林制度による奥会津森林生態系保護地域等、既にある制度を利用する。ユネスコエコパークにより新たな規制が出来るのではなく、既にある制度によるエリア内の保護保全と活用を行うことである。

住民説明会では、概

ね理解頂いた。

また、登録後の施策については、登録で得られる誇りとブランドを基に、保護・保全、調査・研究、産業振興を三つの柱とし事業に取り組みたい。

総務企画課長

9月10日から12日にかけての各地区センターでの出席状況はそれぞれ只見・朝日・明和の各地区センターで約10名、3地区で合計30名の町民の方のご出席を頂いた。

大塚議員

只見町の特徴を最大限に活かした、オリジナリティ溢れる町づくり、独自の町づくりを推進するところがあるが、具体的にはどういう町づくりなのか？

町長

従来、私も只見町の再生というものを農林業の再構築、農林業や農産物、只見の地域を活かした滞在型の観光交流を視点として地域経済を図っていきいたいと考えた。

更なるスピード化を

もって取り組むには、只見町民がこの自然というものを前提とした地域ブランド化を図っていくことが一番大事と考える。

エコパークの登録が実現すれば、国際的な評価も含め国内的な評価も受ける。

自然首都・只見として宣言してきたこの町が、それにふさわしい町であるためには、こういった国際認証を得ることを契機に努力していくことと考える。制度に理解を頂くに

は時間も掛かるが、そういうことこの理解の普及と啓蒙と同時に、今後この災害復旧と併せながら、その後の只見町の取り組みを考えたい。

人口減少や若者定住についても、その想いは、数値目標があらうとなかろうと、出来ようとして来ると、やっつけていかなきゃいけない喫緊の課題であるという認識である。



藤田議員

難関と言われた9号トンネルも貫通し全面通行に大きく前進した。何年経ってもあと10年と言われた八十里越えも仮橋ではあるが往来出来るようになった。

そこで、我が只見町は開通に備えた町づくりが急務であり、早急な議論が必要だと考える。役場前の交差点、そこから交番前、そして只見駅前、町の中心街が人口減少で寂れている。開通前には整備は終わるべきと考える。

町長
この場所は国道が交

差する交通の要所であり駅前通りを形成する中心市街地でもある。整備計画について地区の方々と協議した経過もあるが具体的な方向性を出すまでに至っていない。

八十里峠開通に向けた町づくりの観点と交通安全の面からも計画策定に向けて地区の意見を聞きながら県と協議していく。

藤田議員

この道路は、ロシアや中国からの物流が必ず多くなる。

コンテナ車が往来すると歩道の無い国道は

大変危険だ。早急に県や国に提案すべきと考える。



289号県境越え記念イベント

町長
町内の国道の延長は、

6.6キロ、内、歩道の設置は、9.5キロである。

今後とも、交通安全対策の為、国・県に要望していきます。

藤田議員

道の駅はどうしても必要と考える。今回の風評被害の中で町に道の駅があった

高校振興対策

災害復旧後のまちづくりビジョンは
——只見高校の魅力化する可能性を探る

藤田議員
県立高校は、3年連

らと考える町民は多数。町民の相当の方が期待している。

町長

整備方針や運営体制等検討する必要があると考えている。関係者の皆様と協議を進め、道の駅整備に向けて取り組んでいく。

今年の入学生は34名。深刻な問題には思い切った対策が必要と考える。

藤田 力 議員

地区住民や県と協議し 計画を策定する

—— 目黒町長

奥会津学習センターの整備拡充や学生食堂の開設等入学する生徒に何が魅力なのかを考えなければ支援にはならないと考える。

藤田議員

現行の奨学資金制度の見直し、充実させる考えはないか？

制度を作った時と今では、子供も先生も時代も変わっている。どう考えているのか伺いたい。

教育長

この制度が地域の人材育成にどのような役割を担えるのかの視点で見直しを検討していきたい。

奥会津学習センターの整備拡充や学生食堂の開設等入学する生徒に何が魅力なのかを考えなければ支援にはならないと考える。



復興後の産業施策について



佐藤 孝義 議員

各種施策を通じ
地域農業を再生

目黒 町長

佐藤議員

復興の目途が見えてきた中、今後の町の産業のあり方が、最優先項目になるかと考えるが、次の3点について具体策を示せ。

1. 一次産業である農業の再生と産業の6次化への取り組みについて。

2. ユネスコエコパークと結びつけた観光業と地場産業の育成について。

3. 既存の町内企業、誘致企業の支援策について。

町長

復興後を見据えた農

業施策、具体的には生産者の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の増加等により、5年後、10年後の展望が描けない集落が増加することへの対策が今後ますます重要になると認識している。

そのため、地域の担い手の育成、担い手への農地の集積による耕作放棄地増加の抑制、只見産米のブランド化による所得の向上等、各種施策を通じて地域農業の再生を図っている。

また、産業の6次化への対策については、地場産品である南郷ト



農作物の出荷状況

マトを活用した新商品の開発については、ソバだけではなく、その他の畑作物の栽培も促進すること等により、意欲あふれる農家を支援して6次化に結び付けていけるかどうかを考えていきたい。

ユネスコエコパークのブランドは、観光業の地場産業にとつて大きな効果をもたらすものと期待している。登録後は、国際機関が認めただ只見ユネスコエコパークと明快にアピール出来る。

平成26年の登録を見据えた取組みを早急に始める。

既存の町内企業、誘致企業の支援策については、利子補給制度や補助制度を設けて支援策を講じている。

また、企業誘致に向けては、只見町工場育成導入促進要綱に基づき、支援策にて対応している。

企業誘致目的の立地優遇制度が珍しいものでなくなりつつある今、求められているものは企業の事業展開への対応と、企業誘致後のアフターフォローと捉えている。

既存誘致企業には、随時、企業訪問を行い、地元根付いていただき、地域との関わりを深くするための取り組みを重点的に行っている。

また、新規の企業誘致策に向けては、先般、地域産業振興等企業誘致基金に2億円の積立

を行い、新たな支援策の検討を行っている。

福島県からの補助金は採択保留が長引き、先行き不透明な状況であることから、国と県の動向を見据えた柔軟な対応をすべく検討を進めている。

町内経済の活性化を推進するため、産業振興行政の必要性が高まっているものと捉えている。

産業振興課長

建設業関係についても、実際にその工事の進捗と会社の資金運用、資金繰り面にも配慮をし、町は従来の前払い金を40%から50%以内の支払いが出来るよう制度を改正した。

産業の6次化とは

第1次産業の農業等、第2次産業の加工等、第3次産業の流通・販売等を合わせた産業形態のこと

新国議員

只見町の交通対策と町長の4年間の自己採点について問う。

JR只見線における只見・川口間の再開通に対する町の取り組み、見通しを問う。

只見地区から下流域の迂迴路について、叶津から下流は豪雨の際橋が水が上がり孤立している。

この10年間に2度あったわけだが、堅盤橋の高上げや、橋の架け替え等町の方針を問う。

町長

JR只見線、只見・川口間の再開通について

では、本町は勿論、関係市町村や各種団体等により数多くの要望活動が行われているが、再開通の見通しは立っていない。

最近になりJR東日本がようやく被害額の積算検討に入る旨の話は聞いているところである。引き続きこの路線が当地域にとって重要な鉄道路線である事を様々な方法で訴えながら、再開通に向けて要望活動を行っていきたい。

改めて議会との合同で要望活動もお願いしたいと考えている。現在、県において叶

津川災害関連事業の採択を受け川幅の改良や河川内の土砂撤去、河床の安定を図る為の床止工を整備しており、安全な川づくりに向け工事中である。

堅盤橋の架け替えの計画は無いが、今後も災害に強い町づくり、安心して暮らせる町づくりに努めていく考えである。

自己採点については、自分なりの反省はたくさんある。産業振興については極めて厳しい自己反省している。

自己評価については、11月に町長選挙がある

ので点数は各議員各位及び町民各位に委ねたいと考える。

町長の色々な公約があつて、足がかりが出来たところとか、この点は十分に私の政策が届いたという事があるか？

自分なりの成果と致しては、医療・福祉関係における医師の安定は図ってきた。観光交流面では、滞在型の事を推進していく体制づくりについて、社団法人観光まちづく

り協会を通してやってきた。只見町の生き残りのため、ユネスコエコパークの認証に向けて今進んでいる。また全国の人々からこの只見町が評価され、来ていただけるような町にして行くことに取り組む一歩の踏み出しがここまで来たと考えている。

新国議員 任期もあとわずかである。全力をつくして町政執行をされたい。また、下流域の道路については、もう一度町の計画を再考された

新国議員 任期もあとわずかである。全力をつくして町政執行をされたい。また、下流域の道路については、もう一度町の計画を再考された

新国議員 任期もあとわずかである。全力をつくして町政執行をされたい。また、下流域の道路については、もう一度町の計画を再考された

交通対策と町長の自己採点を問う

新国議員 秀一

鉄道関連は要望活動する
厳しく自己採点する——目黒町長



水害は交通を遮断する

町政を問う

内容を要約してお知らせします。

企業誘致に関して具体的に どのような取り組みをしているのか



石橋 明日香 議員

時代の変化に対応しながら 企業誘致を行っていく

—— 目黒 町長

石橋議員
企業誘致方針と、企業誘致に向けての具体的な取り組みについて問う。

町長
これまでは澄んだ空気と豊富な清流を前面に打ち出してきたが、今後はユネスコエコパークの認定による新たな付加価値付けにより、世界に誇れる只見町の特色をPRして、企業イメージとのマッチングを図りたい。
大震災以降、リスク

の分散化を目指す企業が増えているため、地震に強い地域、安定した電力を提供できる地域として企業側の立地戦略に訴えていく。

また、国道289号の早期開通を実現し、日本海に近い流通ルートを確保し、環日本海及び北東アジアへのアクセス改善を目指している。
新たな企業誘致に向けては、まずは関連業種の情報収集と企業への働き掛けを行っている。

具体的な誘致策としては、地域産業振興等企業誘致基金の貴重な財源を有効活用すべく、新たな支援策の検討を行っているが、県のふくしま産業立地復興企業立地補助金が先行き不透明な状況なので、国と県の動向を見据えた検討を進めている。

今後時代の変化に柔軟に対応しながら企業誘致に向けて取り組んでいきたい。
石橋議員
地震に強い地域とし

て、具体的にどのような産業が適していると考ええるか？

産業振興課長
今ある製造業関係の横の連携を強めながら、高度な技術の集積や、同業種又はその技術を求めた業種の企業等により一つの製造業の大企業立地を想定している。
石橋議員
製造業はいまや人件費の安いアジア諸国に労働力を奪われてしま

っている。地震が少なく、寒冷地であることを利用して最も適しているのはデータセンターなどではないか。ただでさえ国内での衰退著しい製造業よりも、成長産業であるIT分野も視野に入れてはどうか。大学出の若者が地元に戻ってきて働ける場所があると思えるような産業を誘致した方がいいのではないか。

只見町は本当に地震が少ない町であり、そこをもっとPRしていくべき。
地震に強い場所を求めている最たる企業がデータセンターであり、かつその分野においては若者や頭脳の流入を促進できるところにポイントがある。また、企業誘致だけでなく、町内で新たな産業を起こして行くことも重要だ。事業を起こしたい人材を活用できるように基盤整備が必要。補助金頼みの企業誘致や

起業促進ではなく、企業側の視点でこの町の魅力をもっとPRし、金銭的メリットがなくても自然と企業が集まってくるくらいのPRの仕方をすべき。
積極的な立地意向調査や企業訪問、様々な産業展示会やメッセなどへの出店等、具体的な行動を起こして行くべき。

町長
具体的な取り組みにおいては、期待されるような状況には至っていないのが実情だが、今日改めて企業誘致というものを考え直す良い機会になった。
自信を持ってこの地域をアピールしていき、提案されたことを一つ一つ検討していきたい。
この他に集合住宅の整備及び集落の過疎化問題への取り組みについて質問がありました。



防災情報のネットワーク化を 検討

目黒 仁也 議員
目黒 町長

災害に強い町内情報通信体制の再整備を

町長 災害復旧事業の推進、治山、治水事業等の早期実施の働きかけ、集落の自主防災組織の立ち上げと支援、更には、防災教育等を通じ安全で安心して暮らしている地域をつくらせていきたい。

目黒議員 昨年9月に示された「新潟・福島豪雨災害からの復興基本方針」において、今後どのような防災に強い町を指していくのか？

目黒議員 復興基本方針の中で、災害に強い情報通信ネットワークの構築を随所で述べられている。道路橋の復旧、避難所

観光は依然厳しい。JR只見線大白川〜只見間の再開通が決定し、回復の兆しも見えてきたが全国の復興応援マインドの風化が懸念される。

又、首都圏開催のイベントに参加する等の風評被害対策を行っているが、9月県議会に上程される予定の交付金事業の活用も今後図っていきたい。

の見直し、防災庁舎の建設と併せ、観光や高齢者対策にも役立つ全町的な情報連絡網の再整備をこの際行うべきだ。

町民生活課長

町内8集落に衛星電話を配備した。また、エリアメールの配信も進めている。現在の情報の伝達は一方通行であり、双方の体制、防災情報のネットワーク化の検討は今後必要と考えている。

目黒議員

風評の影響は昨年より厳しいが、その関連予算は前年比減額である。

むしろ、積極予算を組むべきだ。

旅行代理店との直接提携によるツアーバスの企画等、誘客を狙った実弾予算を積極的に組むべきだ。

また、只見の観光の在り方をもう一度考える時期だ。

産業振興課長

風評対策では、9月県議会に上程予定の「福島県ブランドイメージ回復支援市町村交付金

事業」の活用を検討したい。

只見町で最低4〜5千万相当を試算している。物産展、地域復興イベントの開催、情報発信の強化、地域コミュニティ活動の支援等に活用出来るとの情報提供を得ている。

町長 防災は、今回の経験を活かし足りなかった

もの、必要なものを十分見直し対処していく。観光は、教育と自然環境を含めた推進が必要である。

また、滞在型観光は、健康と密着したプログラムが組めるのか等の検討を進める。

どういう観光が今只見に求められているのかを含めて考えていくことが大事だと思っている。

●町内の観光客入れ込み状況

年度	合計	備考
平成13年度	358,958人	
平成14年度	336,811人	
平成15年度	326,076人	
平成16年度	308,921人	
平成17年度	259,349人	
平成18年度	261,649人	
平成19年度	283,765人	
平成20年度	263,483人	リーマンショック
平成21年度	234,659人	
平成22年度	223,124人	
平成23年度	151,890人	東日本大震災発生

町当局からの提供資料より

町政を問う

内容を要約してお知らせします。

ユネスコエコパーク認定後のビジョンは

おのぶ 小沼 信孝 議員



具体的な事業計画は 今後の課題

目黒 町長

小沼議員
認定後もエコパーク事業を展開し、独自のまちづくりを行っていくとのことだが、具体的な事業計画はあるのか？

考えはあるものと思ひ質問した。本日に検討委員会で検討されるまで何も無いとは思わないうが、どのように考えているのか？

町長
具体的な事業計画は、現段階では今後の課題である。

町長
夢や期待の一端を申し上げる。

小沼議員
認定されることでどのような町になっていくのか、町長としての

小沼議員
登録に向けた今後の流れは？

総務企画課長
今年度中に登録申請作業をすれば、通常だと平成26年度中には登録になると考える。

小沼議員
そうすると認定までまだ間がある。

昨今問題になっている野生鳥獣の被害を拡大させている山林との住み分け的な整備、大勢の方々が訪れた際のルールづくり、受け入れ体制づくり等、しっかりとした対応をされたい。

放射能 放射線量独自調査について — 町単独の調査を秋に実施する

小沼議員
前定例会の際、「町独自の調査をやるべきである。」との答弁だったが、その結果を示されたい。

町長
農地・水等の町独自の検査を10月末から予定している。

産業振興課長
この秋に82箇所地点を決め、調査していきたい。

小沼議員

前定例会の際、「検査された所は調査すべきである。」との答弁があった。
布沢川は調査しなかったのか？

この秋の調査地点に布沢川は入っているのか？

産業振興課長

現段階では、まだ場所を決めていないので検討したい。

小沼議員
基準値を超えるもの

が採取された場所が、調査地点に入るかどうか分からないとは、本日に町は禁止解除に向けた考えはあるのか？

町長

無いわけではなく、きちんとやっていく町の姿勢は何ら変わりない。

小沼議員

一刻も早くしっかりとした対応を図られたい。

この他に只見川・伊南川合流地点の河川計画について質問がありました。



空間放射線測定器

鈴木議員

10月1日に只見・大
白川間は再開通される
が、再開通を祝うイベ
ントの計画はあるのか？

只見・川口間の復旧
見込みを問う。

豪雨災害後、1年1
ヶ月が経過した。町が
県、JR仙台、東京本
社及び関係機関に陳情
した件数を問う。

町長

再開通を祝うイベン
トについては、お帰り
なさい只見線事業として
「一番列車に乘ろうツ
アー」の実施、魚沼市
との連携による双方で
の再開通記念ツアーの



JR只見線只見・川口間の災害復旧対策を問う

一層の要望活動を展開する

鈴木 議員
鈴木 征 議員

目黒町長

計画、只見駅前歓迎イ
ベントとして歓迎火花
の打ち上げ、記念品の
配布等を計画している。

只見・川口間は再開
通の見込みは立っていない。
JR東日本が被害額
の積算検討に入る旨の
話は聞いている。

JRへの要望件数に
ついては、本町単独で
新宿の本社、仙台支社
福島支店、新潟支社に
各1回、福島県鉄道活
性化対策協議会での活
動で、仙台支社、仙台
支社福島支店に各1回、
新潟支社に2回行って
いる。

鈴木議員

陳情活動を粘り強く
するのが、行政のトツ
プとしてやるべき事だ
とある。

陳情した際の感触は
どのようなものだった
のか？

町長

JR側も復旧・復興
することには言い分が
あると考える。

このJR線を通して
何をしようとしている
のか、どういう地域を
つくるのかと。

この沿線の町村の方々
と無くしてはならない
只見線という位置付け
の中で、只見線に乗っ

て来て頂けるような企
画や案を出しながら取
り組んでいくことが大
事だと切に考えている。

全国的に最下位の赤
字路線が廃線になって
いる状況を踏まえれば、
只見線もそういった位
置付けの中にあると考
える。

そこを打破していく
ために、尚一層の要望
活動を展開していか
なければならぬと考
えている。

鈴木議員

豪雨災害の復旧に向
けた取組みについて、
地震に強い水道管の敷
設・整備状況と倉谷入
道路の復旧状況を問う。

また、保養センター
は年内に再開出来るの
か？

耐久性の高い水道管への更新と
保養センター再開見込みは

水道管は更新の計画あり
保養センター年内再開は困難

となっており、設計完
成後さらに工事予算の
上程及び入札手続き等
があることから年内の
再開は難しい。

この他にH25年度に
向けた町財政運営等
について質問がありました。

町長

水道管について、耐
久性の低い石綿管は、1
km残っている。

現在、全ての石綿管
の更新を計画している。
町道黒谷倉谷線は、

流出した道路3カ所の
復旧工事が完了し、1
ヶ所が河川工事との関
連もあり年内の完成を
予定している。

保養センターは設計
工期が12月30日まで



水の安定供給を

町政を問う

内容を要約してお知らせします。

浅草岳登山道の現状と復旧の見通しについて

なかのたかのり
中野大徳議員

年度内の工事完了を目指す

目黒町長



中野議員

新潟・福島豪雨により、浅草岳の登山道は大打撃を受けている。特にブナの原生林を散策出来る通称「沼ノ平コース」は地形が変わるほどの被害を受けた。

浅草岳登山道の現状と復旧の見通しを問う。

町長

昨年から森林管理署や森の案内人に行頂きた計4回の調査を実施し、計14箇所を被災箇所を確認している。被災のほとんどが土砂崩れや登山道の崩落あり、沼ノ平において

は、笹沼の決壊、曲り沼の水位低下、風穴から上流の約200メートルの間は沢から流れ出てきた土砂に覆われている。

被害は甚大であるが、森林管理署及び森の案内人から、適切な復旧作業を実施すれば現道での通行可能との判断を頂き、入叶津登山道の工事を9月14日に発注した。

只見県登山道については、7月23日の国道252号再開通後に4回の調査を実施し、登山道入り口から幽の倉沢の間で4箇所を被災箇所を確認した。



安全な登山を楽しめるように

土砂崩れや沢を渡るための架設の橋が流され

る等、現在、設計書の作成に取りかかっています。

り、近く工事発注を予定である。

いづれの登山道においても、現場での確認作業や手続きの煩雑さにより時間を要しているが、年度内の工事完了を目指して取り組んでいる。

中野議員

只見三名山ある中で、現在登山出来るのは蒲生岳のみであるが、来年度の山開きは可能か？

産業振興課長

入叶津登山口方面については、合計14箇所の被災箇所があるが、降雪前に工事を完了させたい。田子倉側の登山口についても同様である。危険性がなければ次年度、浅草岳の登山が開始出来る様に準備を進める。

中野議員
浅草岳登山道周辺一帯の整備をする考えはあるか？

町長

浅草岳の登山道を含め、またその登山道に関わる入り口の環境整備をどうしていくのかということも大切な課題と認識している。

将来を見据えたエコパークと関連付けて、環境づくりをどうしていくかということも大きな課題として捉え、議論していく事になる。趣旨を踏まえて討議させて頂きたい。全町一体的に、様々な観点からいろんな課題を、提起して頂き取り組んでいくことが、大きな重要テーマになると認識している。

山岸議員

林道白沢線の災害復旧状況と会津朝日岳山道の復旧工事の見込みを問う。

町長

朝日岳・いわなの里へのアクセス道路としての重要な役割を担っている。

復旧状況は、次年度に全工区の完成を目指す。

全町的な被災による災害復旧工事の進捗状況を見据え、登山道の復旧見通しを立てる。

山岸議員
まず住民の生活圏で

田畑・水源の確保等が最優先である。

激甚災害工事は期限があり、大変困難な問題もある。

この工事と同時進行で町の経済活動をするべき。

山や川の恵みを受けて生活している人もいることから林道の早期開通が必要と考える。白沢林道の工事発注状況を問う。

産業振興課長

白沢林道の未発注工区は、次年度の発注となる。

山岸議員

白沢林道は自然味溢れる景観で、いわなの里は老若男女、子供に至るまで親しまれ、楽しく過ごせる場所である。

町内に宿泊されているリピーターも多く、評価の高いスポットである。

白沢林道といわなの里の早期復旧は、その他の町内観光資源と同様に只見町の重要な観光一大要素を持つ施設である。その存在をどう認識するか問う。

町長

観光スポットとしての位置づけ・価値観・評価は、議員と同じ認識である。これからも進捗を願う。

山岸議員

いわなの里の問題は、町の商店や事業者に共通する。

25年間家族一丸になり、必死にやってきた。出来れば再開したい。林道が開通してからでは遅い。

施設・釣り堀の整備等に時間が掛かる。早く着工しないと意欲も失せてしまう。

25年間の知識・技術等の蓄積は大変大切なものである。意欲を持って立ち上がろうとする時に行政は手を差し伸べるべき。

町長

チャレンジしていくとなれば、その時点で行政支援というのは然

るべきと考える。

山岸議員

協働のまちづくりと言われるが、被災した企業や商店等に対し、どう考えているのか？

声掛けが必要と考える。体力の弱った者にその声掛けはどれほどの薬になるかしない。活力のある町にするため、やる気が無くな

ることのないようにするべき。

白沢林道やいわなの里の早期復興は町民に明かりを灯す源になる。

町長

被災から立ち上がるうとする人達に寄り添い、心配りをすべきとの指摘と受け取る。応えていけるよう努力する。

子育て支援 子宮頸がんワクチンの接種補助を 補助対象者の拡大はしない

山岸議員

現在、高校3年生の女子は、子宮頸がんワクチン接種を受けていない。

費用は1人5万円掛かる。ワクチン接種の補助をする考えはないか？

山岸議員

国でもワクチン接種緊急促進事業の延長について通達もある。発病者が増加しているため重要視されている。

積算すると町費で負担する分は85万円である。

町長

一定の年齢からは対象外とせざるを得ない。

保健福祉課長

定期健診でも十分予防や早期発見が出来ると認識いただきたい。

観光資源の再生について



復旧工事の状況を 見据え対応

——目黒町長

山岸 fumiko 議員

町政を問う

内容を要約してお知らせします。

ん!?! 何でだよ?

保養センターはいつ再開するの?

■現状

新潟・福島豪雨災害により施設利用が出来ない状況です。

■結論

再開時期は、平成25年度の見通しですが、詳細な時期は未定です。

保養センターの源泉は使用することが出来なくなってしまったことから、何かしら特色のある湯を取り入れ、現在の建物をリニューアルしたうえで町民の方々に利用頂く予定です。

施設のリニューアルに伴う企画や設計等は、町当局から説明を受けつつ協議している段階です。



リニューアルオープンが待たれる保養センター

旧只見地区センターはどうなるの?

■現状

耐震性が不足し、また施設内にあった有害な物質であるアスベストを除去したことはお伝えしたところです。

今後あの施設はどうなるのでしょうか? こういった声が町民の皆さんからありましたのでお答えします。

■結論

まだ決まっていません。

今後その利活用等を協議していくことになります。

役場本庁舎の基本設計に役場本庁舎と只見地区センターの合築等を検討する旨の説明が町当局あったところですが、検討の段階です。



その行方が決まっていない旧只見地区センター

役場本庁舎の基本設計って?

■現状

役場本庁舎は耐震性が不足していることから今後使用することが困難と判断されています。

議会としても取り壊しをすべきと決定しています。

基本設計(与えられた条件を具体化し基本的な事項を定める段階の設計)予算が可決されました。

これは役場庁舎をどのような建物にしたいかを定めるものであって、実際の建築を進める設計書(実施計画)ではありません。

■結論

現段階では、※プロポーザル方式によって設計業者を選別している段階です。

基本設計の内容について、議会には具体的な説明がありませんが、町のホームページには掲載されています。



役場庁舎では様々な人と仕事が入り出しています。

お詫びと訂正

議会だより128号P.5において、役場庁舎のあり方を決める基本設計予算の紹介で、「具体的な設計を行う前の概要設計を作成する」と記載しておりましたが、正確には「具体的な設計を行う前の基本設計を作成する」が正しい表記でした。

町民の皆さんの意見を 聴かせてくんな

～議員の突撃インタビュー～



目黒 彰一さん
只見区長等を歴任され、
只見町議会を傍聴されて
いることをきっかけ
にインタビューしました。

議会に対してどう思いますか？

議会報告会を待望
していた。画期的で
評価出来る。今まで、
町民と議会の対話が
不足していた。

今後は、具体的な
政策を協議出来るよ
うにしてほしい。



議会報告会

Q. 少子高齢化の現状をどう思いますか？

高齢化問題の本質は少子化である。企業誘致等に全力を
注いでほしい。

これは只見町が存続できるかどうかの問題だ。

Q. 議会だよりは読みやすくなりましたか？

新しいことに取り組んでいるのが見える。重要な議案等
については、大きくページを使い、専門用語等の解説ペー
ジを設けるべき。それが町民と議会を繋ぐページにもなる。

Q. 議会に対してどう思いますか？

日頃から町民との対話を大事にしてほしい。
意見を待つよりも動いてほしい。特に若者と
交流し、そこから次のまちづくりのヒントを
見つけてもらいたい。

Q. 国道289号トンネル開通への取組みはど う思いますか？

只見町の若者と三条市の若者の交流イベン
トを開催してみても？と提案したい。

三条市はエコパークに関心があるので、強
くアピールすべき。

Q. 子育てをされた経験から教育政策について どう思いますか？

子育てで一番大変な時期は、高校から大学
です。大きな出費も考えられます。

奨学金制度を充実させて、一時期の保護者
負担を軽減させるよう、実情にあった政策を
望みます。



本多 一恵さん
商工会女性部長を務
められている他、書道
教室を開設されています。
町関連の会議等に多
く参加されている経験
から意見を頂きました。

町民の方々に町政や議会等に対してどのように考えている
のかを議会広報特別委員会の委員が直接お伺いして、様々
な想いを聴いてきましたのでご紹介いたします。

議会広報特別委員会より……
貴重なご意見ありがとうございます。
紙面の都合上、全部を掲載させるこ
とは出来ませんが一部を掲載させて頂
きました。

「専門用語の解説ページ開設」につ
いては、「ん!?あれは何でだよ?」で
内容をお知らせする他、各ページに解
説コーナーを入れて対応します。

議会の主な動き

8月 1日	災害対策特別委員会
8月 2日	議会運営委員会
8月 7日	議会8月会議
8月20日	総務厚生常任委員会
8月22日	只見金山昭和県道改修促進期成同盟会
8月28日	災害対策特別委員会
8月31日	経済文教常任委員会
9月 3日	議会運営委員会
9月 9日	町内敬老会
9月10日	災害対策特別委員会
9月13日	議会運営委員会・議会広報特別委員会
9月18日	議会9月会議(～28日)
9月24日	決算特別委員会(～27日)
10月 5日	議会運営委員会
10月11日	災害対策特別委員会
10月12日	県道小林館ノ川線改良要望
10月17日	しあわせ金婚夫婦表彰式
10月21日	秋季消防検閲式
10月22日	福島県下町村議会議員研修会
10月24日	議会報告会(～26日)
10月30日	議会10月会議
11月 3日	文化祭

次号の議会だより表紙を



大 募 集

町民と議会との接点でもある議会だより。その議会だより作成に町民の皆さんも参加してみませんか？

当委員会では、町民と議会の距離感を縮める企画として、議会だよりに使用する写真を募集します。

町民のイキイキとした表情の写真を常に(締切なし)募集していますので、どしどしご応募ください。

受付は議会事務局となります。

また、どのような写真が良いか悩まれる場合は、議会広報特別委員(下段参照)が相談にのりますのでお気軽にご連絡ください。(連絡先は議会事務局 電話82-5300) 応募された作品の著作権は、只見町議会に帰属しますのでご了承ください。

議会広報特別委員会

委員長	山岸	フミ子
副委員長	石橋	明日香
委員	大塚	純一郎
	中野	大徳
	目黒	仁也
	小沼	信孝

まだまだPR不足で、参加者も少なかったですが、広く町民に議会活動を理解していただく様に取り組んでいきます。(次回から議会報告会開催の担当は広報委員会になります。)

(大塚)

今回の議会だよりは、 ※なじよだったかない?

あなたの意見が 議会を変える

議会活動や議会だより等に対してご意見のある方は、電話・手紙・メール(gikai@town.tadami.lg.jp)での受付を行っています。

直接意見を伝えたい場合は、議員と事務局が直接意見をお伺いいたします。

※なじよだったかない?・・・
只見町の方言で「どうでしたか?」という意味

議会議事録が ホームページで 見れます



パソコンやスマートフォンから只見町議会のホームページに入っていただくと、議会本会議分(平成24年6月第2回会議から)の議事録を見ることが出来ます。

議事録のデータ作成の都合もあるため議会終了後から時間が掛かる場合もありますが、随時更新していますのでご覧ください。

編集後記

議会広報紙として一番重要な事は、タイムリーに発行することだ!と委員全員で取り組んでいます。またまた発行が遅くなってしまうました。

今回、只見町議会での初めての議会報告会を、只見、朝日、明和の3地区で開催しました。